

紹介記事

南海電気鉄道株式会社の農業関連事業 ～ソーシャル・ビジネス¹の一例として～

和歌山大学経済学部
特任助教 上野 美咲

和歌山社会経済研究所
主任研究員 中井 敬明

1 はじめに

元来、地域密着型のビジネスを展開する鉄道会社では、鉄道沿線の魅力創造のために様々な形態で沿線の開発を行っているが、なかでも都市圏を中心にブームとなっているのが、環境面に配慮した事業や農業関連事業である。これは都市化が進行する一方で、環境等に配慮した事業や都市農業の重要性が注目を浴びていることに起因する。首都圏の一つの動きとして、小田急電鉄株式会社（以下、小田急電鉄と略称）の会員制貸菜園事業の例が挙げられる。首都圏を中心に鉄道事業等を営む小田急電鉄では、小田急線「成城学園前」駅西口正面に2007年5月より会員制貸菜園「AGRIS SEIJO」の営業を開始した。線路跡地の利活用の一つとして、駐車場や駐輪場のほかに貸し菜園を実施したのが始まりである。現在では、ベジタブルスタディーコース等の各種講座を実施し、利用者（家族での利用を含む）は世田谷区周辺在住の小学生から高齢者まで幅広く、区画全体の8割程度が利用されている。

一方、関西圏では、2017年4月、大阪と和歌山・関西空港・高野山を結ぶ鉄道事業等を営む南海電気鉄道株式会社（以下、南海電鉄と略称）が羽倉崎（大阪府泉佐野市）に体験農園を開園した（図表1参照）。南海電鉄は当該事業の開始以前より、環境に配慮した取り組みを積極的に行ってきた。大阪ミナミのターミナル駅である南海難波駅直結の屋上庭園「パークスガーデン」（面積約11,500m²）がその最たる例である。パークスガーデンは商業

図表 1. 暮らし菜園 羽倉崎



出典：南海電鉄提供資料

¹ ソーシャル・ビジネスとは、企業が経済的価値を創造しながら、社会的ニーズに対応することで社会的価値も創造する事業を展開する経営モデルのことを指す。

施設の屋上緑化としては国内最大級の規模を誇り、国内外での認知度も高く、これまでも様々な賞や認定を受けている。

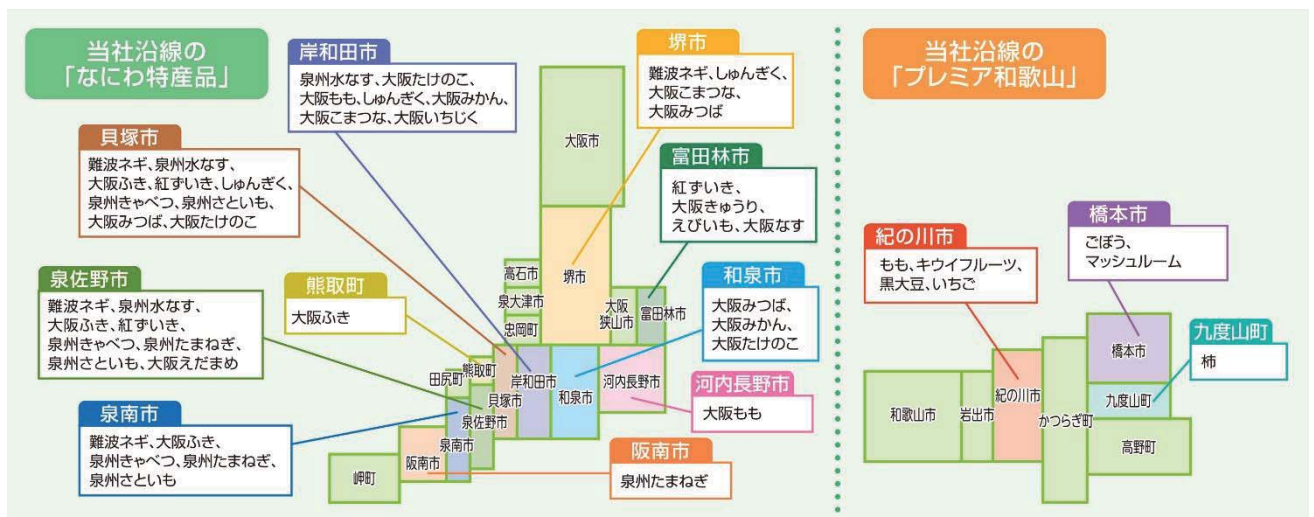
そこで、南海電鉄が近年展開する体験農園「くらし菜園」等の農業関連事業について以下紹介したい。

2 農業関連事業の概要

現在、南海電鉄では体験農園「くらし菜園」のほか、難波駅 2 階改札内に設けた泉州ブランド野菜直売所「Vege Sta.（以下、ベジステ）」、難波駅のイベントスペースを活用した南海沿線の特産品販売イベント「沿線マルシェ」の 3 つの事業を展開している。

図表 2 で示しているように、南海沿線には泉州水なすや難波ねぎ、そして、紀の川市の桃といった全国的に有名な農産物が多く生産されており、南海沿線のイメージを「食と農の高感度地域」とするべく、地域の魅力を高める施策の一環として当該事業は行われている。

図表 2. 南海沿線の主な産地



出典：南海電鉄提供資料

当該事業のうち最も早くに実施されたベジステ（2015 年 6 月 12 日開設）では、南海電鉄と株式会社泉州アグリ（以下、泉州アグリ）が連携して、泉州近郊で収穫した朝採野菜を中心に販売している。11 時から 20 時の営業時間内（年中無休）には女性客が目立つ。地元の若手農家が直接店頭立ち商品説明を行うところも魅力の一つである。また、開設 1 周年を記念したイベント「とうもろこしの収穫体験！」を開催した際には、夏休みということもありファミリー層や食の安全に関心の高い女性の参加者が多かった。ベジステの目指すところは都心で郊外の情報を発信することであり、その後、実際に農業体験のために郊外へ来てもらうという仕組みづくりにある。

また、同様の目的で 2016 年 8 月より実施する沿線マルシェは、第 1 回は、泉州アグリのほか、和歌山県内の企業を含め 10 店舗以上が出店した。毎月最終の月、火、水曜日（営業

時間は 11 時から 20 時）で実施され、季節ごとの目玉商品が並ぶ。2016 年 9 月 26 日から 3 日間を通じて実施された「南海沿線のおいしさ発見！秋の「沿線マルシェ」」では、秋の新米にあわせて、泉州で採れた数種類の新米を食べ比べしやすい 1kg パックで販売するほか、梅干しなどの商品が売り出された。主な客層としては、ベジステと同様に駅を利用する女性客に加え、駅周辺のホテルや飲食店のシェフの姿も見かける。

続いて、くらし菜園について紹介していきたい。

先述した羽倉崎に始まり、現在では、河内長野市清水（惣代地区）や泉佐野市日根野（野々地藏地区）で同様の取り組みが行われている（図表 3 参照）。沿線の耕作放棄地の活用を行うことで、沿線の魅力向上を図ることが目的である。南海沿線上の 3 箇所で実施されている体験農園の詳細と特徴については図表 4 を参照されたい。くらし菜園は「農ある暮らし」というコンセプトを掲げており、余生を郊外で楽しみたいと考える 50 歳代以上の方や食の安全安心に関心の高い 30 歳代以上の女性を主な対象としている。体験農園全

図表 3. 体験農園の様子



出典：南海電鉄提供資料

体の利用率は 8 割程度となっているが、このうち沿線外からの参加者も含まれる。基本的には農業に初めて携わる方が多いため、講師に対する質問も毎回多く受け付けており、座学も並行して実施する。また、それぞれの地域に応じた品目を栽培し、特色を出している。羽倉崎では泉州きゃべつやたまねぎを栽培し、河内長野では里山の美しい景観の中で大阪では希少な小麦を育てるといった内容である。栽培した小麦は、パン店のオーナー・シェフの直接指導のもと、参加者はパン作りを学ぶ。泉佐野・野々地藏では、近年注目される農業土壌診断技術の SOFIX（土壌肥沃度指標）技術を導入し、生産物の高品質化および収量の増加を実現させる土作り学習を行うなど多様なメニューを提供している。都市部では土地の確保が難しい中、家庭菜園を行いたいという参加者のニーズを上手く捕まえた形で沿線の魅力向上に貢献している。今後は各家庭で菜園を行えるような住宅企画も検討されており、「食・農」を活かした沿線の開発が様々な形態で進行する予定である。

図表 4. 体験農園「くらし菜園」の概要

名称	くらし菜園 羽倉崎	くらし菜園沿線ファーム 河内長野	くらし菜園 泉佐野・野々地蔵
内容	泉州アグリと提携し、季節にあわせた体験プログラムを提供している。これまで開催されたコースは月 1 回（1 年間）で農業技術や知識を中心に、座学と実習を行うグループ耕作コース「週末農園塾コース」や自由日程の個別指導型コース「体験農園コース」等である。	NPO 法人里山ひだまりファームと協働し、小麦の栽培からパン作りまでの一連の流れを体験できる「小麦栽培体験」を実施している。	SOFIX 技術のブランド認証を体験農園として全国で初めて受け、「土作り学習と栽培体験コース」を実施している。
場所	泉佐野市南中安松（羽倉崎駅からバス約 5 分）	河内長野市清水（三日市町駅からバス「青葉台センター前」下車徒歩約 20 分）	泉佐野市日根野（泉佐野駅からバス乗車、「野々地蔵」下車徒歩約 1 分）
開園日	2017 年 4 月 16 日	2017 年 11 月 5 日	2018 年 4 月 22 日
広さ	約 700 m ²	約 480 m ²	約 500 m ²

出典：著者作成

3 おわりに

今回紹介した南海電鉄の取り組み事例のように、地域に根ざしたビジネスを展開する鉄道会社は、各地に広がる体験農園に関与することにより、農園自体のイメージ向上やエントリー層を広げることにも貢献しているといえよう。さらに、各自治体が抱える耕作放棄地問題に対して、農業への関心の高い住民との橋渡しの役割も担っている。文字通り「人」の移動や「情報」の運搬に大きく寄与し、さらには事業目的の柱である沿線の魅力創造にも繋がっており、ソーシャル・ビジネスの一例として当該事業の動向に注目していきたい。

謝辞

本記事をとりまとめるにあたり以下の皆様に取材協力いただいた。

南海電気鉄道株式会社 営業推進室 事業部 課長 赤迫 ゆり 様
 南海電気鉄道株式会社 営業推進室 事業部 主任 岩辻 侑加 様